

白藍塾オリジナル

2026年度 入試小論文分析&解答のヒント

2026年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

課題文は、外山滋比古のロングセラー。エッセイ調で読みやすく、わかりにくいところはほとんどないだろう。夜よりも朝の時間、もっと言うと朝食前の時間のほうが頭がよく働いて仕事はかどるといふ、言ってみればそれだけの内容だ。

問1は、筆者の考える「朝飯前」の意味を説明する問題。筆者が「朝飯前」について説明しているのは、課題文の第9～10段落なので、その部分の内容をまとめればよい。「朝飯前」という言葉は、ふつうは「朝飯前に片づいてしまうほど簡単なことだ」という意味で使われるが、筆者の考えでは、「朝は頭がよく働くので、決して簡単なことではないのに朝食前だと簡単にできてしまうように見える」ということになる。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

問2は、①「最高の時間」についての筆者の考えを述べた上で、②自分にとっての「最高の時間」を述べることが求められている。

筆者の言う「最高の時間」というのは、課題文全体を読めばわかるように、「頭がよく働いて仕事のはかどる時間」ということなので、まずはそのことを説明する。

次いで、自分にとっての「最高の時間」を述べることが求められているわけだが、この問題は「根拠とともに」という部分、つまり、理由をきちんと説明できるかどうかポイントなので、どの時間を「最高の時間」とするかは自由だ。筆者と同じく朝の時間でもよいし、夜の時間、またはもっと細かく、夕食前の時間、夕食後の時間、夜寝る前の時間など、いろいろと考えられる。

また、筆者にならって「最高の時間＝頭がよく働いて仕事はかどる時間」と捉えて書くほうが無難ではあるが、必ずしもそうでなくても、自分がその時間を「最高」と考える理由をしっかりと、具体的に説明できていれば、十分説得力のある内容になるはずだ。

書き方としては、①を最初の段落にまとめた上で、②を2部構成のA型を使って書くとよいだろう。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複製することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>